

1

美化

鉄

暑  
さ

2

朝礼

湯

洋式

貧乏くさい

上

工

勉強に

期待

ショック

工

やつあたり

ウ

3

いじめ

に見えた。

堅くて

心材

成長したり

振り返った

工

ア

イ

導管や師管

死んで

イ

不思議

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

1

- 1 「美化」は「美しくすること」「実際以上に美しいと考えること」という意味があるが、ここでは前者の意味で使われている。
- 2 「鉄」の右側が「矢」とならないように注意しよう。
- 3 「暑い」とまちがえやすいものに「熱い」がある。「暑い」は「気温が高いこと」を意味し、「熱い」は「物体の温度や体温が高いこと」を意味している。同訓の漢字は意味から区別できるように学習していこう。
- 4 「札」を「札」としないように。まちがえやすい。
- 5 「湯」の画数には注意しよう。右側が「易」にならないように気をつけよう。
- 6 「洋式」と「様式」のどちらかでないかもしれない。ふだんから知らないことばに出会ったときには、そのことばの意味や使い方を調べることが大切である。

2

- 1 線①の前の部分で「勉強ができるのに貧乏くさいヤツって少ない」「整った環境があつてこそその、上位」ということが述べられている。それを受けて「なのになぜ」と言っているのだから、百井は「貧乏くさいヤツ」であり、「整った環境」にいるわけではないのであろう。
- 2 「上には上がいる(ある)」「最高にすぐれていると思つても、世の中にはさらにすぐれたものがある(ある)」という意味である。
- 3 どのような人物かをきかれたときは、その人物の行動などに注目してイメージを固めていこう。「あんなボロカバンを使つてるようなヤツに負けたんだと、自分が認めるのも、周りに思われるのも嫌だった」「やばいな。みんなに引かれたかも」「恥ずかしさで死にたくなつた」のような表現が手がかりになつただろう。
- 4 「昨日の屈辱」に関することをきかれてからの、「昨日」のことを述べている箇所からきちんと確認するべきだろう。
- 5 「急に百井に荒っぽく絡み始めた俺」が、さらに何か言おうと口を開きかけたタイミングで「おいおい、大地」とたけるが話しかけてきている。「やけに荒ぶってんなあ。反抗期？」とわざわざ言っていることから、これ以上の百井へのきつい発言をやめさせようとしていることが読み取れる。
- 6 テストでトップをとれなくても百井のせいなどではないはずなのだが、ドッジボールで足手まといになる百井をつい責めてしまったのである。
- 7 「身構えた」ということは、自分を非難するようなことばや自分の行動を不思議がるようなことばをかけられることを予想していたのである。
- 8 クラスメイトの心ないことばに百井は「すみっこのほうに、背中を丸めて座つて」耐えているのである。ここからイメージできたか。二文字めの「じ」が大きなヒントになつただろう。
- 9 一つめは、〈万年トップ〉の正体が百井だとわかつてから、必死に勉強に取り組んだものの、一学期の中間と期末に続き、百井にまた二学期の中間テストで負けてしまったことが明らかになつた場面、二つめは、その結果を父親に見せている場面ということになる。場面分けの問題では時間・場所・状況の変化などを意識して考えていくことが大切である。

3

- 1 I 何を答えなければならぬのかをしつかり考えよう。この問いでは「柱に適しているのはどの部分か」ときかれている。「柱」「適する」といったことばを意識しながら本文からさがしていく姿勢が必要である。本文六段落めに「柱として適している」ということばがあった。あとは◎の一文にうまくあてはまるように答えよう。  
II 「柱」「生物」としては死んでいる。「生きる」といったことばを意識しよう。四段落め「生物としては生きています」ではありません。「五段落め」「柱が生きていると言われるのは」が手がかりとなつただろう。
- 2 接続語はそれぞれのことばがどのようなはたらきをするかを理解することがまずは大切である。(②)の前後で木の外敵が木をどのよう狙っているかということの具体例が並べられているので、(②)には「また」がはいる。(③)の前には外敵が木を狙っているということについて、あとには木が外敵から身を守る方法について書かれているので、(③)には理由と結果を結びはたらきを持つ「そのため」がはいる。(⑤)の前に書かれている「心材の部分の細胞は死んでいるため導管や師管をふさいでも問題ない」という内容と、あとに書かれている「心材以外の部分の細胞は生きています」のため、導管や師管をふさぐわけにはいかない」という内容が対照的なので、(⑤)には「しかし」がはいる。
- 3 線④の前後の文脈から「抗菌物質を貯める／注入すること」が「防御」につながるのだが、その注入は「導管や師管」をふさぐことになるということがわかる。さらにそれだけではなく、生きている細胞の「導管や師管をふさぐわけにはいかない」ということもわかる。抗菌物質による防御は生きている細胞には使えないのである。
- 4 直前に「こうして」とあるのでここより前をしつかりと読んでいこう。心材の部分の細胞はすでに死んでいて、心材以外の外側の細胞は生きていますということから考えよう。
- 5 「生きている部分と死んでいる部分」があることを筆者は「⑦な生き物だ」と言っているのである。「生きている部分と死んでいる部分」の両方について説明している部分に⑦にはいることばがあるのではないかと予想を立ててさがすことが大切である。

以上